

特集：粉体工業展大阪 2009 を終えて

粉体工業展大阪 2009 を終えて

Report on POWTEX OSAKA 2009

大阪粉体工業展委員会 濑尾 博幸
Hiroyuki SEO

はじめに

急激な経済の悪化、世界同時不況、リーマンショックから一年以上経過しましたが、我々を取り巻く環境の厳しさはまだ続きそうです。

このような情勢の中、経済産業省近畿経済産業局、農林水産省、文部科学省、環境省、大阪商工会議所、関連する諸機関のご後援、粉体工学会、(社)化学工学会、日刊工業新聞社、フジサンケイビジネスアイの特別協賛、その他団体の協賛を戴き、インテックス大阪にて、「粉づくり・ものづくり・夢づくり－粉の技術－」をテーマに、10月21日から24日までの4日間、粉体工業展大阪 2009 が開催されました。出展規模は前回の大坂を若干下回る170社/団体・563小間でしたが、このような経済情勢にもかかわらず、大勢の来場者に来ていただき、各社のブース内では、活発な商談が交わされ、内容のある展示会として、4日間の幕を閉じることができました。

同時開催として、粉体工学会〔21日、22日〕、APPIE 産学官連携フェア 2009 〔23日〕、全日本科学機器展in大阪 〔21日～23日〕がおこなわれました。また、今回も粉体工業展大阪 2009 会場内で最新情報を広く PR していただく場として、ナノパーティクルゾーンを設置し、見学者の好評を得ることができました。

【開催概要】

今回から、入場者数は会場入り口の来場者登録受付数でカウントし、天候にも恵まれたことで多くの来場者を迎えることができました（写真-1）。

出展社数 170社/団体〔前回178社〕

小 間 数 563小間〔前回598小間〕

10月21日〔水〕晴れ 3,031名

10月22日〔木〕晴れ 3,884名

10月23日〔金〕晴れ 4,166名

10月24日〔土〕晴れ 1,326名

合 計 12,407名

1号館、2号館は連絡通路で連ね、展示会場に170社のブースが配置良くレイアウトされ、製品技術説明会の会場は1号館にA ルーム、B ルームを設置し、技術相談コーナーは協会ゾーンの中に作られました。メイン入口は1号館に設け、ここで粉体技術総覧の無料配布がおこなわれました。また、2号館の入口からは、全日本科学機器展 in 大阪の見学者も来場され、会場は賑わいを増すことができました。今回は、4日間開催の最終日を土曜日としました。土曜日しか来られない来場者には喜んでいただきましたが、前日までの来場者数とは乖離が大きく、活気溢れる展示会の最終日としては少し寂しく感じられたことと思います。



写真-1 入場受付前の賑わい

1. オープニングセレモニー

展示会初日の午前9時30分から、会場受付前に関係者約170名の列席のもと開催されました。冒頭主催者の(社)日本粉体工業技術協会 江見 準会長（写真-2）、日本科学機器団体連合会 入江 照四会

長、フジサンケイビジネスアイ大阪代表 鹿間孝一専務取締役の挨拶に続き、ご来賓を代表して近畿経済産業局 産業部次長 伊藤哲郎氏より祝辞をいただきました。その後、主催者の江見会長、大阪粉体工業展委員会 島田啓司実行委員長、入江会長、鹿間専務取締役、大阪科学機器協会 松井理事長、ご来賓の近畿経済産業局 産業部次長 伊藤哲郎氏、大阪府商工労働部商工振興室ものづくり支援課 参事 古川隆一氏、大阪市経済局 産業振興部 都市産業担当課長代理 中島明美氏、粉体工学会 会長 日高重助氏、日刊工業新聞社取締役大阪支社長 曽根洋一氏、奈良先端科学技術大学院大学 副学長 新名惇彦氏によるテープカットがおこなわれました。

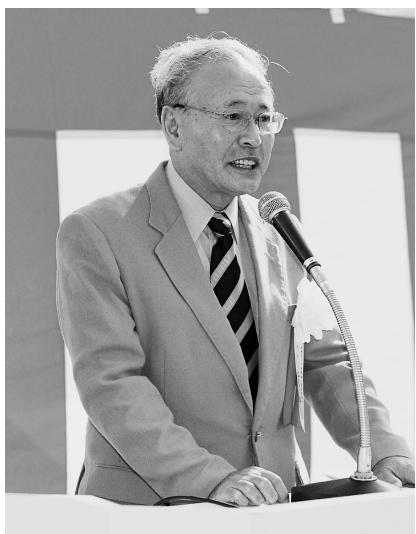


写真-2 江見会長の開会挨拶

2. 開催記念レセプション

初日21日午後5時30分より、ホテルハイアット・リージェンシー・オオサカにおいて、約280名の出席のもと開催されました。



写真-3 レセプション会場

江見会長の挨拶の後、ご来賓を代表して、日高重助会長より祝辞を戴き、島田啓司委員長の乾杯でパーティーが始まりました（写真-3）。

出席者の歓談、飲食の後、加藤文雄副委員長と筆者が、展示会の成功を願い、いつもの漫才風に、微妙な中締めをさせていただきました。

3. 最新情報セミナー

2日目、22日の午前10時30分から正午まで、インテックス大阪センタービル内国際会議ホールで、最新情報セミナーが開催されました。産業医科大学 産業生態科学研究所 労働衛生工学研究室 教授 田中勇武氏より「吸入曝露による粒子状物質のリスク評価－ナノ粒子・ミクロン粒子・繊維粒子について」と題して講演戴き、109名の方が聴講されました（写真-4）。

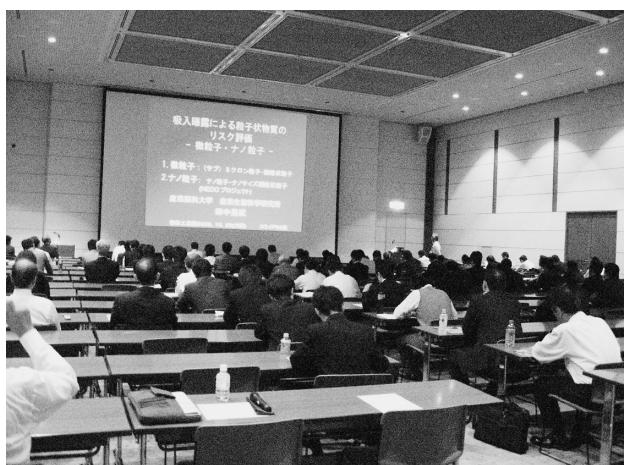


写真-4 特別講演風景

4. 粉じん爆発セミナー

同じく、2日目、22日の午後1時から5時まで、インテックス大阪センタービル内国際会議ホールで、「静電気放電による着火危険性と粉じん爆発事故・対策」をテーマに、粉じん爆発委員会委員長 東京大学大学院 土橋 律教授の開会挨拶をスタートに、東北大学 榎本兵治名誉教授、獨産業技術総合研究所 荷福正治氏、獨労働安全衛生総合研究所 山隅瑞樹氏の方々に講演戴き、175名の方が聴講されました（写真-5）。

5. セミナー

展示会初日には、粉体工業展大阪 2009 主催者



写真-5 粉じん爆発セミナー風景

コーナーの特設オープンステージにて、ナノ粒子の曝露防止技術・管理技術セミナーが開催されました。「ナノ粒子の安全な管理のために～協会のこれまでの取り組みと今後の対応」と題して、ナノ物質の安全性向上のためのガイドライン作成委員会副委員長 伊ヶ崎文和氏の講演をスタートに、興研(株)、(株)日立プラントテクノロジー、東京ダイレック(株)、(株)ダルトンより講演され、約200名の方が聴講されました。

6. 製品技術説明会

1号館に A 会場と B 会場を設け、4日間とも11時より開始し、各社35分の説明で実施しました。全部で35テーマが発表され、延べ1,294名の来場者が熱心に聴講されました（写真-6）。



写真-6 製品技術説明会

7. パウダーテクノロジーシアター

3日目、粉体工業展大阪 2009 主催者コーナー特設オープンステージにて、パウダーテクノロジーシアターが開催され、いつも約20名の方々が視聴

されていました。

8. パウダーテクノロジーシャー

最終日、粉体工業展大阪 2009 主催者コーナー特設オープンステージにて、2回開催したパウダーテクノロジーシャーでは、延べ194名の方が参加されました。

なお、パウダーテクノロジーシアターおよびパウダーテクノロジーシャーの詳細については、18p を参照ください。

9. ナノパーティクルテクノロジーゾーン 出展社プレゼンテーション

2日目、粉体工業展大阪 2009 主催者コーナー特設オープンステージにて、出展社によるプレゼンテーションがおこなわれました。延べ316名の方が聴講されました。

10. 技術相談コーナー

展示会場2号館内協会ブースで開かれ、粉体工学会の協力を得て、長年続けられている技術相談コーナーは評判が高く、今回も21日～23日の3日間、毎日3名の先生方を迎えて開かれました。相談は無料で、予約を11時から受付、1時30分より4時10分まで、1件20分で実施しました（表-1）。

表-1 の諸先生方に相談員をお願いし、53件の相談を受けました。

表-1 技術相談コーナー

| | | |
|-------|----------|---------------|
| | 富田 侑嗣 氏 | 九州工業大学名誉教授 |
| 10/21 | 牧野 尚夫 氏 | (財)電力中央研究所 |
| | 齋藤 文良 氏 | 東北大学多元物質科学研究所 |
| | 佐藤 宗武 氏 | 佐藤粉体テクノラボ |
| 10/22 | 椿淳 一郎 氏 | 名古屋大学大学院 |
| | 中村 正秋 氏 | 中村正秋技術事務所 |
| | 竹内 洋文 氏 | 岐阜薬科大学 |
| 10/23 | 奥山 喜久夫 氏 | 広島大学大学院 |
| | 榎本 兵治 氏 | 東北大学名誉教授 |

11. カタログコーナー

会場内に設置しましたカタログコーナーでは、前回を大きく上回る13社26種類のカタログを展示していただき、多くの請求が得られました。

12. 学生交流会

第2日目の10時よりおこなわれた学生交流会は、粉体工業展の度に開催していますが、非常に評判が高く、今回も定員50名をオーバーする69名で実施されました。人材育成委員会のお世話で、リーダーの説明を聞きながら展示会場内を引率され、1号館、2号館とグループに分かれ見学しました。学生34名、企業35名の参加者は見学後も協会関係者と歓談し、大変有意義であったとの意見を戴いております。将来の人材育成に多少の貢献はできたと思います（写真-7）。



写真-7 展示会場内で説明を聞く学生交流会参加者

13. APPIE 産学官連携フェア 2009

第3日目、インテックス大阪センタービル内国際会議ホールにおいて、APPIE 産学官連携フェア 2009 が開催されました。174名の参加者の中、大学や公的研究機関から、70件のシーズ提供がありました。

14. 粉体工学会秋期研究発表会

コスモスクエア国際交流センターでは、併行して粉体工学会「秋期研究発表会」が21日、22日の2日間おこなわれました。参加数は183名で、発表に対して活発な討論がありました。

おわりに

今回は、なお続く景気低迷に喘ぐ状況下での開催でしたが、若干の出展社数、小間数の減少に留まり、無事開催できたことを深く感謝しております。来場者のカウント方法は更に精緻にと、登録受付数のみとしました。同時開催される展示会からの来場者も正確に掴んだ来場者数を報告させていただきました。

今回も、併催行事や同時開催行事を企画運営しましたが、いずれも盛況で不況を感じさせない勢いを受けました。この展示会を通じ、来場者と出展社の出会いや絆がより一層深まるものと自負しております（写真-8）。

最後に、協会関係者各位、実行委員会、並びに、その他関係各位のご協力を賜り、粉体工業展大阪 2009 が無事終えましたことを厚く御礼申し上げます。



写真-8 展示会場風景



せ　お　ひろゆき
瀬尾 博幸
(株)ダルトン
粉体機械事業部 営業本部長

〒536-0005 大阪市城東区中央2-2-30
TEL : 06-6933-0211 FAX : 06-6933-0177
E-mail : h-seo@dalton.co.jp